

広葉樹材講習会

開催日 2012年10月27日(土)午後1時～5時

会場 松本市 長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門大会議室

参加者 23名(牧瀬 務台 狐崎 太田 小林 田島 須藤 岡村 上田 他14名)

報告者 務台直樹

広葉樹材をテーマに荒山林業の荒山雅行氏と、櫻井銘木店の櫻井弘二氏のお話をお聞きしました。谷さんとの対談という形で、出席者の質問にも答えていただきました。

荒山林業の山は大町市の木崎湖の近くにあり、木崎湖と同じくらいの面積だそうです。昔から薪炭林として利用され、戦後にスギなどの針葉樹に切り替えていったものの、今もクリやナラなどの広葉樹が多く残っているということです。

現在広葉樹は小径木を間伐材として山から出しているということでした。良い木は山で育てている段階ということです。理想としては木の寿命の寸前に伐採したいという言葉が印象的でした。条件が良ければ300年くらいは生きる樹種が多いということでしたので、先の長い話です。

家具に使える原木は、今はあまり出てこないようで残念です。たぶん周りの山でも似たような状況かと思われます。

櫻井銘木店は岐阜にあり、今は日本の良い木は東京より岐阜に集まってくるというお話でした。産地としては東北が中心だそうです。

大きなケヤキやトチの一枚板とか柁のある板が、たくさん倉庫に保管されている写真がありました。一枚板はテーブルやカウンターが主な使い道だそうです。値段もお聞きしましたが、ケヤキでは板1枚で二百万円というものもあり驚きました。柁のある板は小物(工芸品)に使われることが多いそうです。銘木の値段は高いですが、全国の銘木店の倉庫にまだたくさんの在庫があるだろうということです。

材木の乾燥は平らな状態の方が反りにくいが、立てかけた方が速く乾くということです。割れ止めにはパラフィンが一番良いが、塗るタイミングや温度など難しい点があるそうです。